

トリガイの高温負荷試験

近年、トリガイの養殖漁場では一時的に水温が30℃に達し、養殖トリガイへの影響が懸念されています。当センターでは、高水温耐性を持つトリガイの系統の選抜育種を進めていますが、どの程度の耐性を獲得しているかは不明でした。

そこで、現在の系統への高温負荷試験を実施し、本種の耐水温限界とされる29℃前後での生残率を調べました。なお、本試験は、水産研究・教育機構の協力を得て実施しました。その結果、30℃までの水温であれば、餌が十分に供給されることで生残の可能性のあることが示唆されました。

今後は、耐性の指標となる体内物質（グリコーゲンなど）の変化も含め、より詳細な研究を進めていく予定です。



トリガイ高温負荷試験の様子(左:飼育装置全景、右:高温負荷で死亡した試験貝)